

26H-pm10

生薬製剤に対する価値意識調査:SOMによるビジュアル化と解析

○高橋 直子¹, 伊藤 由樹¹, 志田 竜平¹, 川瀬 雅也², 錦織 理華², 邱 峰³,
栃本 文男⁴, 高橋 幸一⁵, 高橋 京子¹(¹阪大院薬, ²大阪大谷大薬, ³審陽薬大, ⁴栃本
天海堂薬局, ⁵武庫川女大薬)

【目的】現代医療において、単一の病因を特定できない疾患の治療分野では、東西医薬品の併用投与が有効な治療手段として用いられている。生薬及びそのエキス成分を含む生薬製剤(伝統医薬品を含む)は、医療用、一般用医薬品、サプリメントとして多用されているが、それらに関する認識度は、医療従事者内外を問わず格差があり、その適正使用の推進や啓蒙の妨げとなっている。そこで、生薬製剤の適正使用の実践をめざし、(1)価値意識調査による現状把握と課題抽出、(2)生薬供給国・中国での試行調査、(3)生薬製剤の QOL 評価を目的とした。【方法】本調査に同意の得られた一般・患者および医療従事者を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートは、生薬由来製剤の品質や市場動向、服用に対する認識度に関する設問を英語・日本語で作製した。回答は単純解析後、SOM (self organizing map) による解析を行った。中国での試行調査は審陽薬科大学で実施し、QOL の評価は SF-36(健康関連 QOL 尺度)を用いた。【結果および考察】国内では生薬や伝統医薬品の効果に対する期待度は大きいのが、天然物である生薬品質への関心が低い。医療従事者の基礎知識と実践不足の現状が明らかとなった。さらに SOM により作成しビジュアル化することで以下の特徴が把握できた。(1)医療従事者群は東洋医学理論への関心が高い、(2)一般群は飲み易さ、効能、金額への関心が高く、『効き方が遅い』や『副作用が少ない』などの誤解がある、(3)両者混在群は有効性・エビデンスに関心が高い。中国の試行調査による単純解析結果は類似しており、2 国間比較を予定している。本結果は、客観的指標を用いた有効性のエビデンス提供の意義を示唆しており、現在 SF-36 を用いた QOL 評価を検討中である。